

施策体系図（多古町地域公共交通計画）

多古町が目指すまちの姿

- 総合計画における将来都市像は「世代を超えてみんなで暮らしつづけたい多古町」
- 移住定住促進、子育て支援等を中心にまちづくりを推進している。

課題

- 課題① まちづくりに対応した公共交通サービスの提供
- 課題② 町外への移動を支える移動手段の維持・向上
- 課題③ 町内の移動を支える移動手段の維持・向上
- 課題④ 持続可能な公共交通サービスの確保
- 課題⑤ 交通弱者の移動を支える公共交通サービスの充実化
- 課題⑥ 公共交通を使う意識の醸成

現状（抜粋）

- 子育て支援や移住定住促進等のまちづくりを重点的に推進している。
- 成田空港の機能強化・圏央道の整備によって、居住人口や観光来訪者の増加が見込まれる。
- 町外への移動は、通勤通学・通院において多く見られ、成田市・匝瑳市・旭市が主な行き先となっている。
- 町内での移動は、買い物・通院において多く見られ、町内のスーパーや病院が主な行き先となっている。
- 商業施設や医療施設は町中心部に多く集積している。
- 全国的に燃料費高騰や人手不足、人件費高騰が進んでいる。
- 路線バスおよびデマンドタクシーについては「利用者一人当たりの財政負担額」が増加傾向にある。
- 高齢化率が約4割であり、将来的にも高齢化が進行すると推計されている。
- 自家用車利用が浸透しており、さらに公共交通の利用者が減少傾向にある。

基本理念（案）

まちづくりの変化に対応した **暮らしを支える魅力的で 持続可能な 地域公共交通**

計画の目標（案）

- ① **成田空港とのつながりを強化する公共交通サービスの提供**
指標：空港シャトルバスの運行本数
空港シャトルバスの利用者数
- ② **近隣自治体への移動を支える公共交通サービスの提供**
指標：路線バスの運行本数
- ③ **町内の移動を便利にする地域内交通の提供**
指標：デマンドタクシーの利用者数
- ④ **公共交通に対する財政負担の適正化**
指標：利用者1人当たりの財政負担額（空港シャトルバス・デマンドタクシー）
- ⑤ **交通弱者の移動手段の確保**
指標：町内在住の高齢者における公共交通サービスの利用率
- ⑥ **使いたくなる魅力的な公共交通サービスの提供**
指標：公共交通の利用促進に関する取組数

施策・事業（案）

★：重点事業

施策1 広域交通の維持・向上

- ・ 空港シャトルバスの利便性向上★
- ・ 路線バスの維持
- ・ 高速バスの維持
- ・ 近隣自治体との協議・連携
※施策④と連動しながら維持向上を図る

施策2 町内交通の充実化

- ・ デマンドタクシーの利便性向上★
＜取組例＞
⇒利用者対象の拡大
⇒中心部利用料金の導入
⇒運行曜日・時間帯の拡大 など

施策3 交通モード間の連携強化

- ・ 乗継環境の整備
⇒乗継ダイヤの調整
⇒駐輪場・駐車場の整備
⇒町内施設を活用した待合スペースの確保 など
- ・ 共通定期券の導入検討
⇒デマンドタクシーと空港シャトル
- ・ 総合交通マップ等の作成

**施策4 公共交通の魅力発信
および魅力づくり**

- ・ 周知チラシおよびポスターの配布
- ・ 町内施設（商業・医療・観光等）との連携
- ・ 乗り方教室等の開催★
- ・ モビリティマネジメントの実施★
⇒小中学校MM、高等学校MM
⇒企業MM
⇒転入者MM
- ・ 先進技術の研究（MaaS、自動運転技術など）★